決算報告会
2023年10月31日

株式会社カイノス
代表取締役社長
長津　行宏

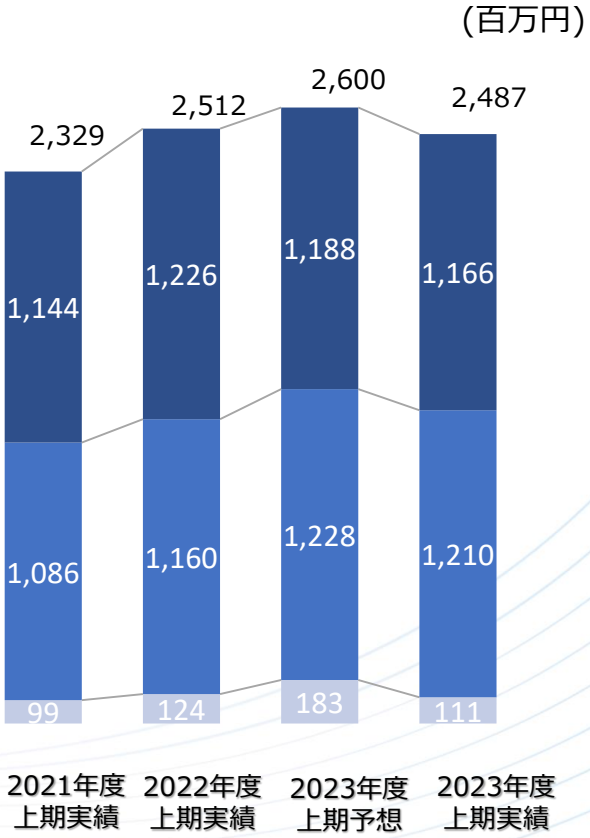
KAINOS
KAINOS LABORATORIES,INC.

2023年度 上期決算

売上高(検査分野別)

・生化学、免疫検査ともに外来患者数は、予想より回復せず、
　生化学検査、免疫検査ともに対予想を下回った
・機器販売が、病院予算化の持ち越し等により低調

	2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	2023年度 上期予想	2023年度 上期実績	期初 予想比
生化学	1,144	1,226	1,188	1,166	▲22
免　疫	1,086	1,160	1,228	1,210	▲18
その他	99	124	183	111	▲72
合　計	2,329	2,512	2,600	2,487	▲113

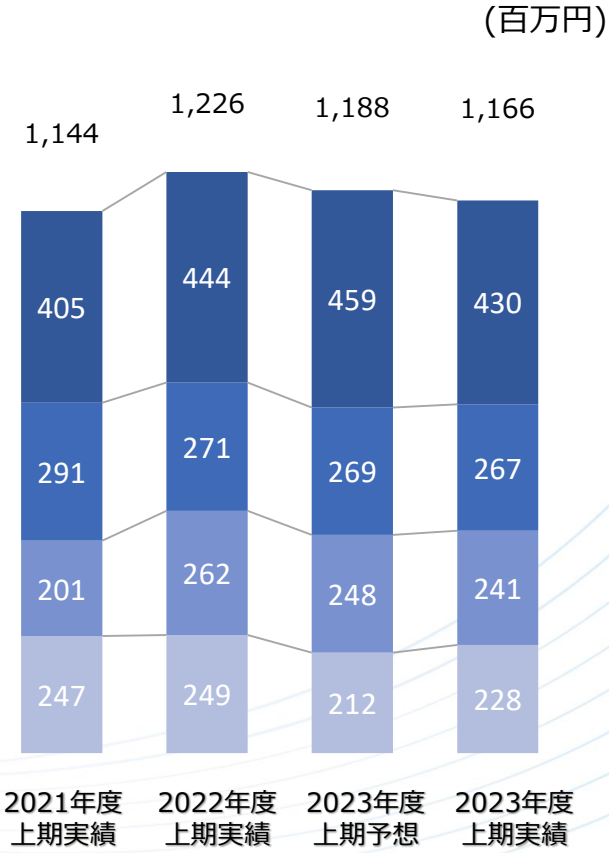


KAINOS

売上高(生化学)

・大学病院はじめ基幹施設へマルチキャリブレーターを活用し、
更なるシェアアップに向け提案中だが、新規採用時期が遅延

	2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	2023年度 上期予想	2023年度 上期実績	期初 予想比
腎機能	405	444	459	430	▲29
肝機能	291	271	269	267	▲2
糖尿病	201	262	248	241	▲7
その他	247	249	212	228	16
合　計	1,144	1,226	1,188	1,166	▲22



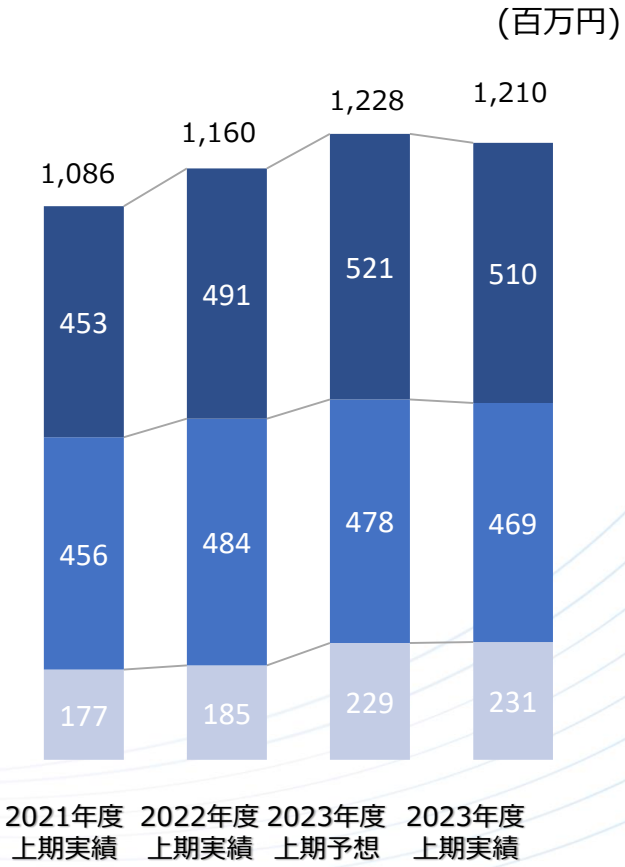
KAINOS

売上高(免疫)

・輸血事業　：機器販売は低調であったが、昨年度末の基幹施設での機器新規設置により対予想は未達だが、前年より増加

・腫瘍マーカー：対予想、前年ともに未達だが、下期でカバー予想

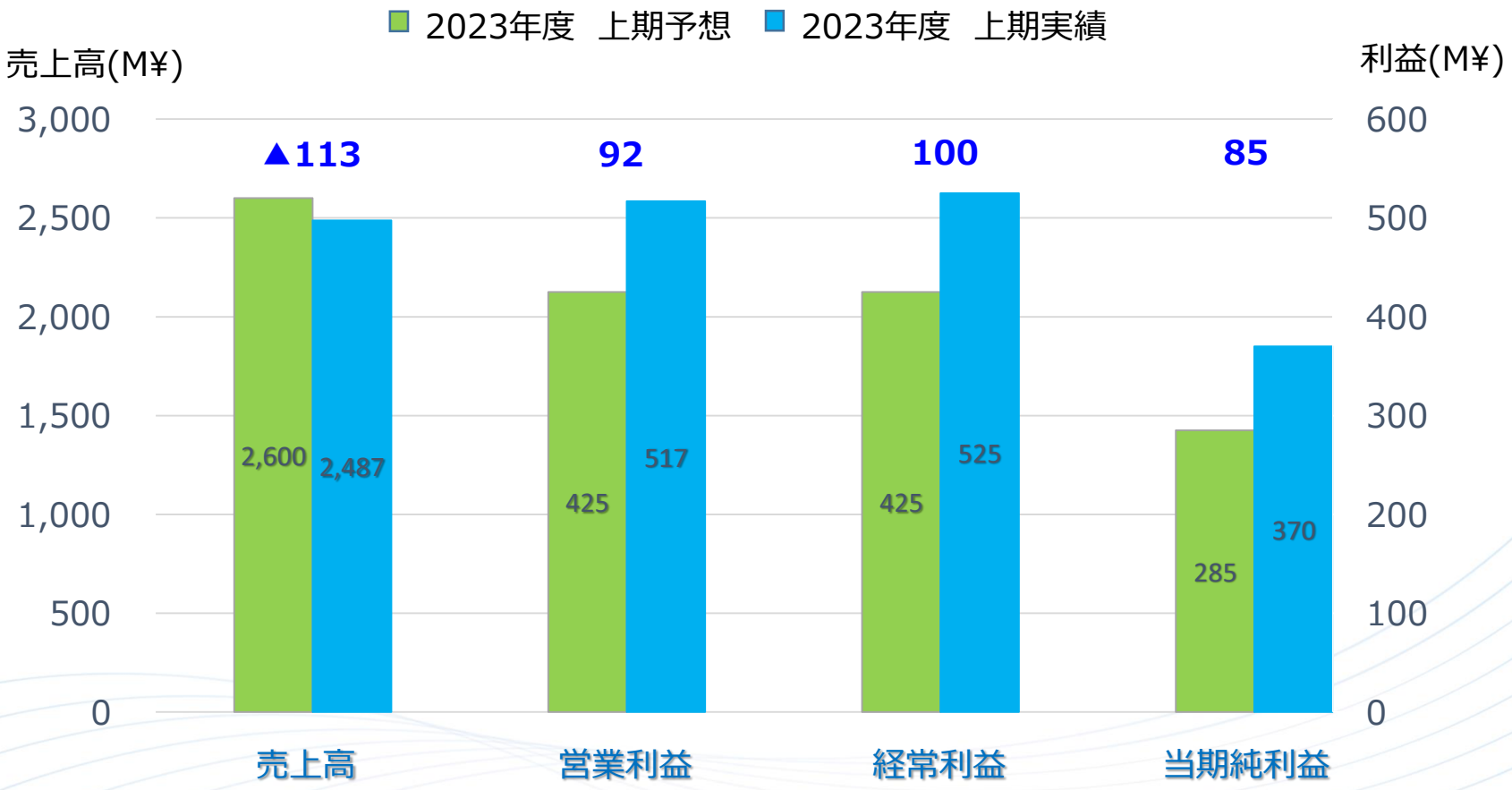
	2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	2023年度 上期予想	2023年度 上期実績	期初 予想比
輸　血 (除機器)	453	491	521	510	▲11
腫瘍 マーカー	456	484	478	469	▲9
その他	177	185	229	231	2
合　計	1,086	1,160	1,228	1,210	▲18



KAINOS

2023年度　上期決算

開示に対し、売上26億円は未達、各利益は達成



KAINOS

2023年度　上期決算 (対予想)

（単位：百万円）

		2023年度 上期予想	2023年度 上期実績	増減額	増減率 (%)
売上高	製品	2,246 (86.4.%)	2,124 (85.4%)	▲122	▲5.4
	商品	354 (13.6%)	363 (14.6%)	9	2.5
	計	2,600 (100%)	2,487 (100%)	▲113	▲4.3
営業利益		425	517	92	21.6
経常利益		425	525	100	23.5
当期純利益		285	370	85	29.8

KAINOS

2023年度　上期決算 (対前期)

（単位：百万円）

		2022年度 上期実績	2023年度 上期実績	増減額	増減率 (%)
売上高	製品	2,135 (85.0%)	2,124 (85.4%)	▲11	▲0.5
	商品	377 (15.0%)	363 (14.6%)	▲14	▲3.7
	計	2,512 (100%)	2,487 (100%)	▲25	▲1.0
営業利益		511	517	6	1.3
経常利益		527	525	▲2	▲0.4
当期純利益		358	370	12	3.1
当期純利益率		14.3%	14.9%	–	–

KAINOS

KAINOS
KAINOS LABORATORIES,INC.

2023年度の取り組み

1. 営業・学術活動
2. 新製品開発
3. 効率化・コスト削減
4. 法令等対応

営業・学術活動

2023年度の取り組み：営業・学術活動

1) 生化学試薬の拡販

・マルチ9項目のシェアUP（CRE,UN,UA,IP,Ca,Mg,GL,TP,ALB）

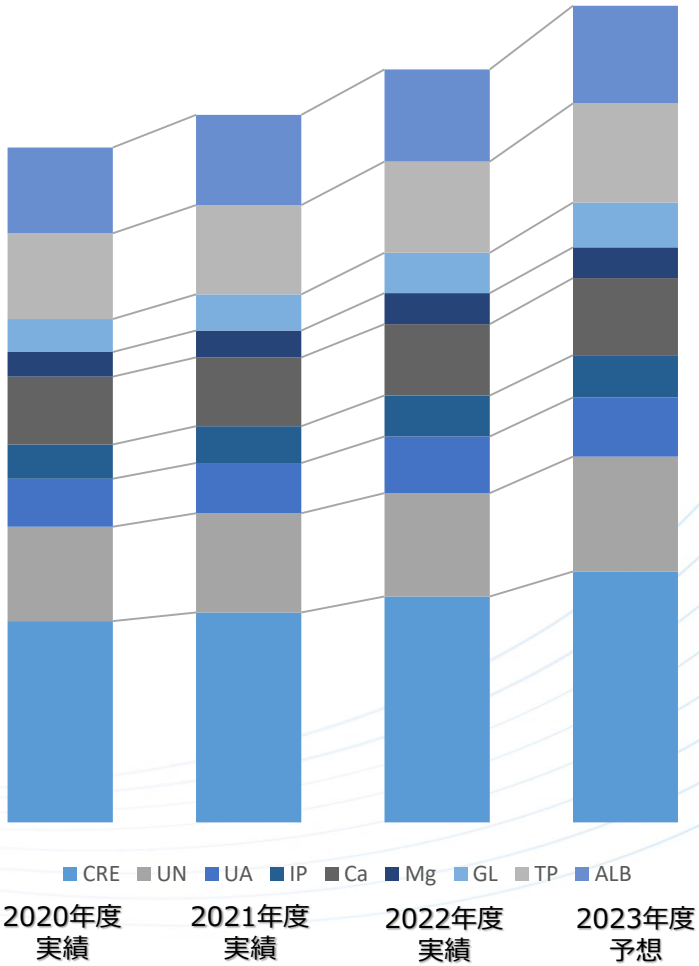
目標： 1,990施設 ⇒ 2,200施設

売上： 1,198百万円 ⇒ 1,400百万円

・クレアチニン (CRE)：トップシェアの奪取

目標： 829施設 ⇒ 1,000施設

＊大学病院、基幹施設の更なる攻略
＊機器メーカーと協業した提案
＊敗血症マーカー市場への参入



KAINOS

2023年度の取り組み：営業・学術活動

2) 輸血項目の拡大

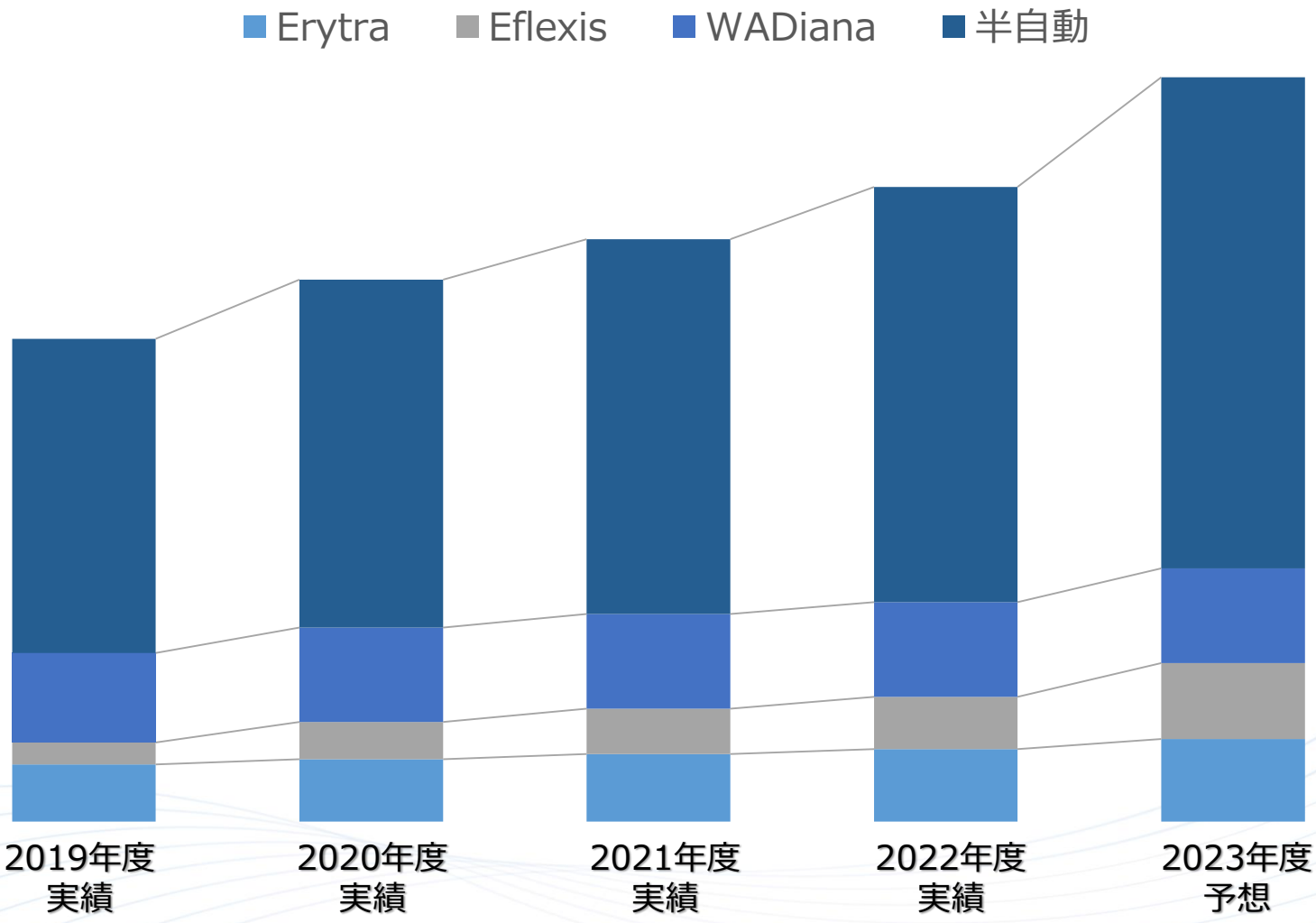
・機器拡販

機器設置目標施設： 403 施設　⇒ 500 施設

＊基幹施設中心に新規設置及び既存施設の確実な更新
＊機器見学（リモート）の推進
＊Webセミナーの継続開催　→6回開催
＊精度管理調査の継続実施 →11月実施予定
＊検査情報誌（MTJ 12月号）掲載予定

KAINOS

輸血機器台数推移



KAINOS

2023年度の取り組み：営業・学術活動

3) 学会活動・営業支援　2023年度 上期

(1) 第71回日本輸血・細胞治療学会学術総会（千葉）5月10 - 13日
展示出展（輸血機器）
ランチョンセミナー (5月12日)
演題：iPS細胞を使用した赤血球試薬 – 研究の現状と安定供給の可能性
座長：加藤 栄史 先生(愛知医科大学 客員教授)
演者：Gregory Denomme先生(Services, Blood Center of Wisconsin)

(2) 輸血ユーザー会（東京）5月11日
4演題・4演者
座長：竹ノ内 博之先生(宮崎大学医学部附属病院 輸血細胞治療部 技師長)

(3) 第72回日本医学検査学会（高崎）5月20 - 21日
ランチョンセミナー　5月21日(日）展示出展（輸血機器・生化学試薬）
演題：新規開発品 敗血症マーカーの基礎的性能評価
座長：奥藤 由紀子 先生 (帝京大学医学部附属病院 中央検査部 技師長)
演者：大川 隆之（カイノス　学術部）

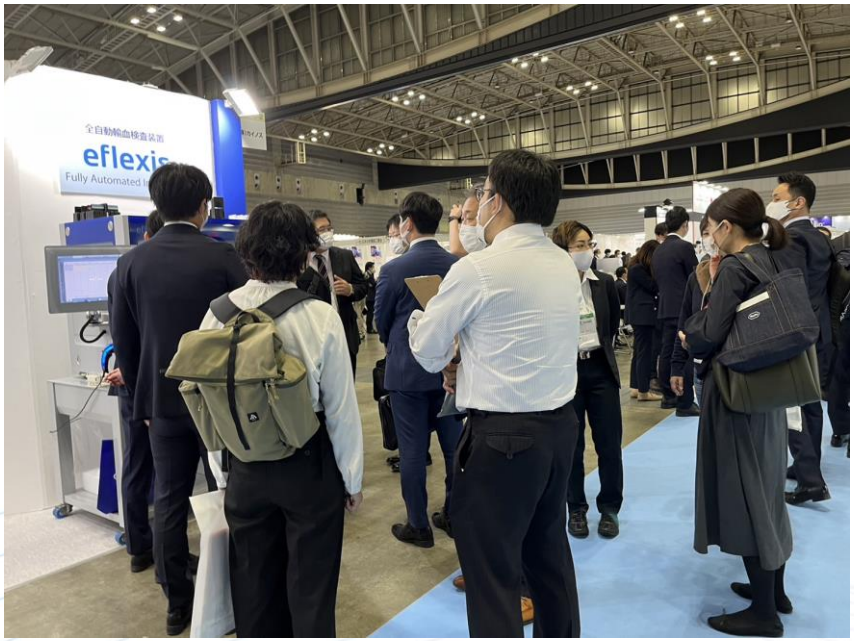
KAINOS

2023年度の取り組み：営業・学術活動

3) 学会活動・営業支援　2023年度 下期

(1) JACLaS EXPO 2023（横浜）

10月 6 – 8日 現地開催　展示出展（輸血機器）



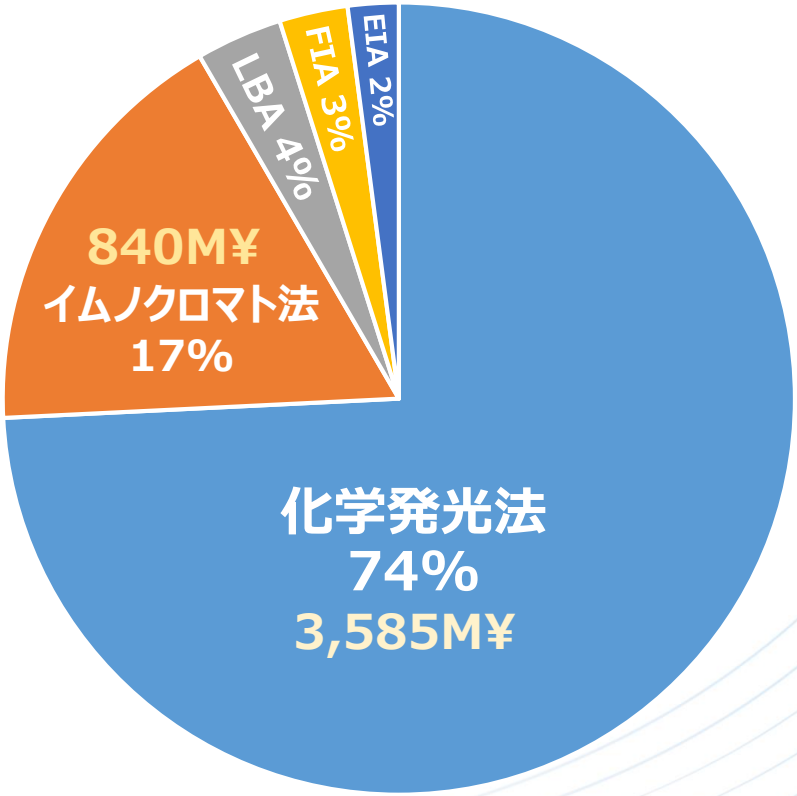
KAINOS

新製品開発

2023年度の取り組み：新製品開発

1) 新規項目（敗血症マーカー）の開発

- 開発 及び 製品化 継続中
- 学会での情報提供活動



プロカルシトニンの市場は約50億円
75%は化学発光法

専用機かPOCTしか存在しない
⇓
生化学自動分析装置用のLatex法を上市
検査アクセスの向上

プロカルシトニン検査の実施施設
3次救急　**300施設**
2次救急　**3700施設**の一部

検査市場　**50.5億円 / 440.6万件**
（2020年富士経済に基づき作成）

KAINOS

2023年度の取り組み：新製品開発

1) 新規項目（敗血症マーカー）の開発

(1) 日本医療検査科学会第55回大会　（横浜）10月8日　ランチョンセミナー
演題：敗血症マーカーの使い分けと問題点
座長：矢島 智志　（横浜市立大学附属病院）
演者：石関 治　（日本大学医学部附属板橋病院）

(2) 第63回日本臨床化学会年次学術集会（東京）10月28日　ランチョンセミナー
演題：敗血症マーカーの特徴と臨床的意義
座長：中川 央充　（慶應義塾大学病院）
演者：宿屋 敬　（カイノス　学術部）

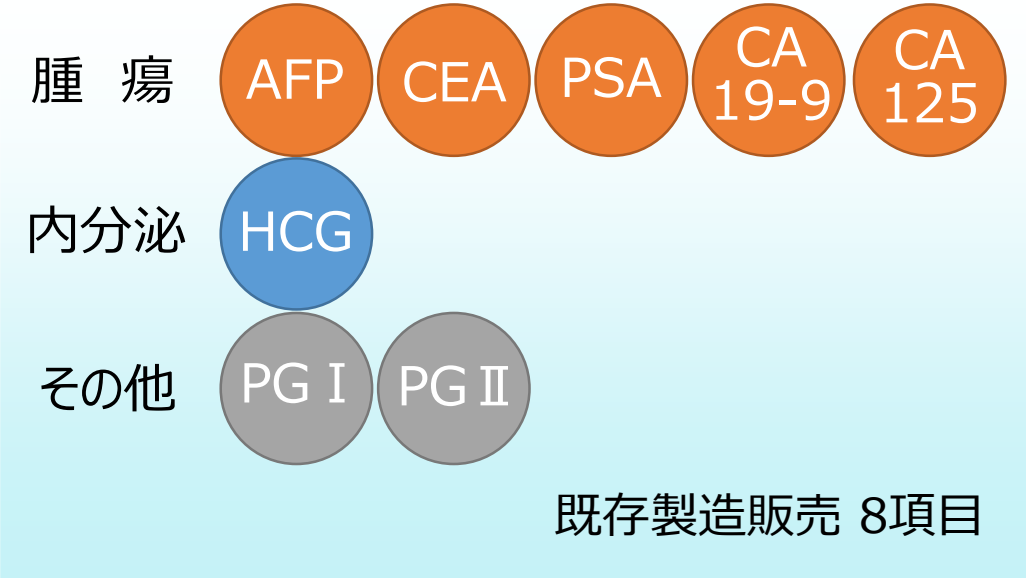
(3) 第70回日本臨床検査医学会学術集会（長崎）11月18日　ランチョンセミナー
演題：敗血症マーカーの使い分けと問題点
座長：橋口 照人　（鹿児島大学病院）
演者：奥藤 由紀子（帝京大学医学部附属病院）
※日本大学医学部附属板橋病院で評価：一般演題で報告予定

KAINOS

2023年度の取り組み：新製品開発

2) HISCL試薬（シスメックス社）の項目拡充

- シスメックスが2007年に開発した化学発光全自動免疫測定装置HISCL専用の診断薬開発・製造を通した協業
- 現在、複数分野 (複数項目) の試薬について開発中



＋ 複数分野 (複数項目)

KAINOS

2023年度の取り組み：新製品開発

3) その他：NASBA核酸クロマト法　スイフトジーン SARS-CoV-2「カイノス」承認申請のデータ補完

- NASBA核酸クロマト法の承認を維持するために外部施設での評価を実施中：　鼻咽頭拭い液 必要例数 収集済
- 2023年11月までに臨床性能のデータを収集中

KAINOS

効率化・コスト削減

2023年度の取り組み：効率化・コスト削減 (1)

1) 用手法充填作業の自動化検討（笠間工場）

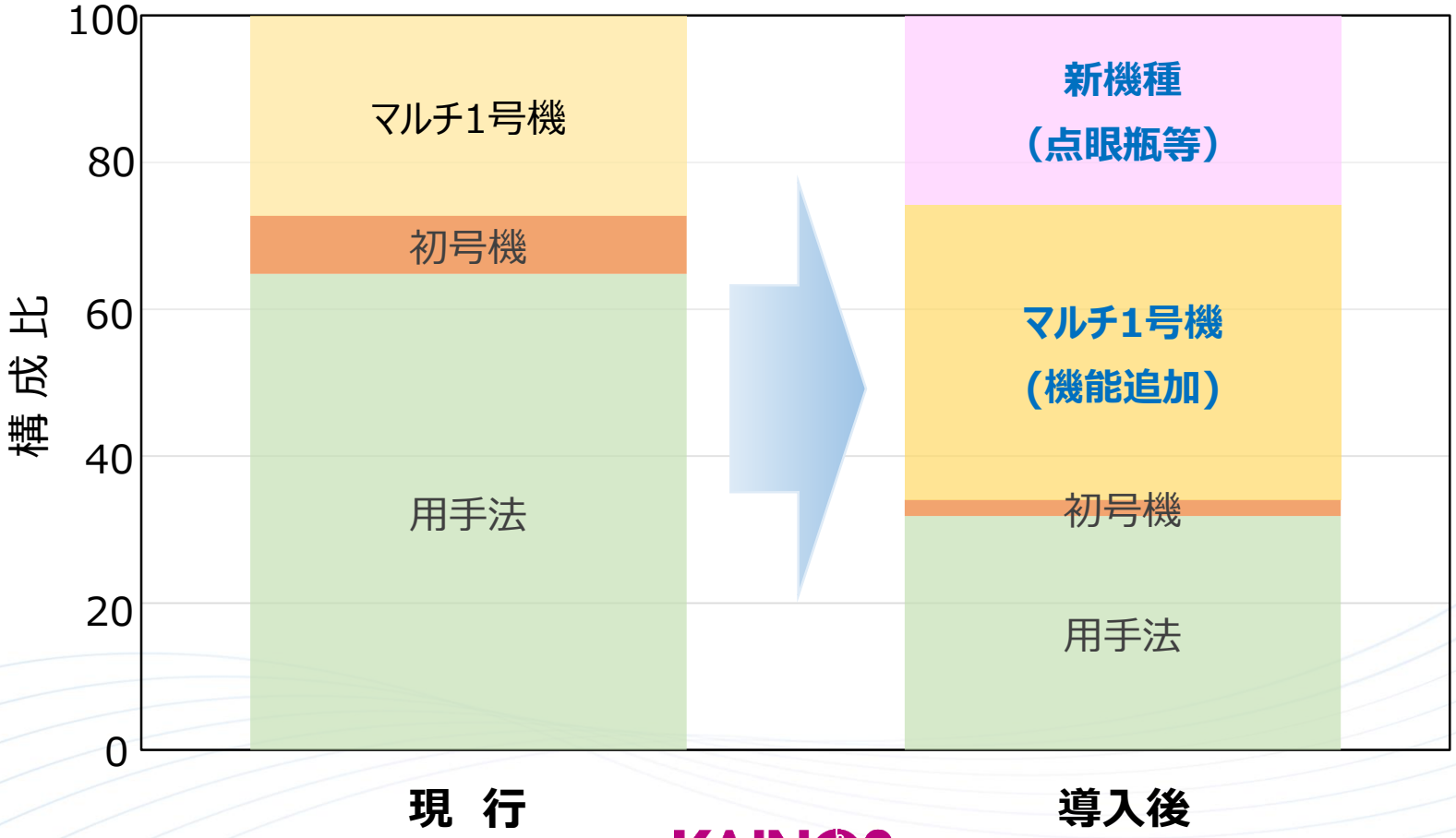
- 現行の半自動充填装置(初号機，稼働12年)の後継
- 切り替え操作の簡略化
- 500本 / バッチ以下でも効果あり
- 300mL以上の充填量への対応
- キャリブレータ用　点眼瓶への対応

KAINOS

2023年度の取り組み：効率化・コスト削減 (1)

1) 用手法充填作業の自動化検討（笠間工場）

構成試薬品番数の変化



KAINOS

2023年度の取り組み：効率化・コスト削減 (2)

2) 配送費の削減　（配送センター）

結果：運送費は前年と同単価で値上げなし
　　梱包資材値上げの影響により配送費微増

2023年度:配送費増加への対策

(1) チャーター便・出荷頻度の適正化による
　　運送費削減の継続
(2) 梱包資材の集約・適正化

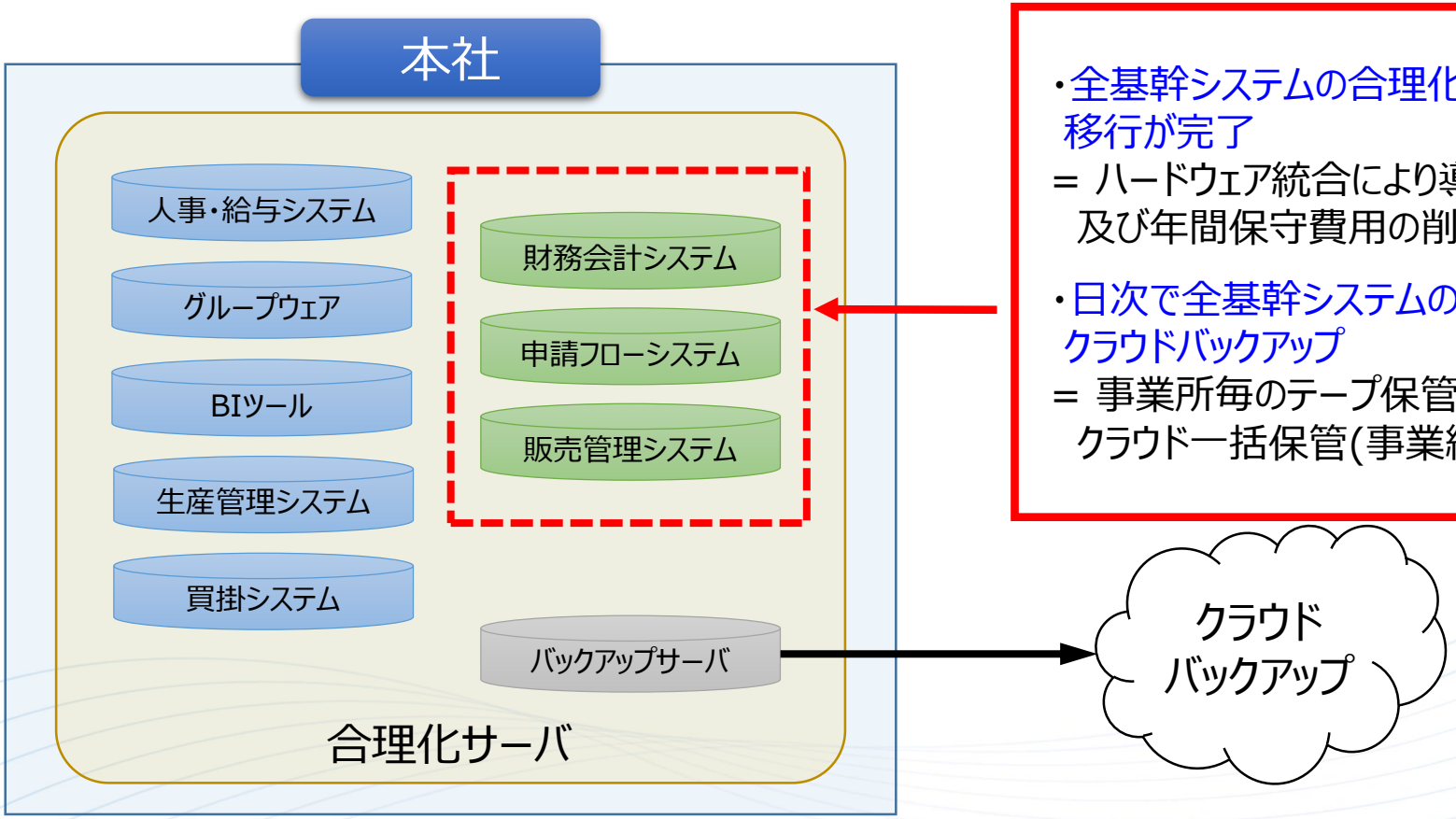
→　売上額に対する配送費の割合を１％以下に抑える

KAINOS

2023年度の取り組み：効率化・コスト削減 (3)

3) 基幹システムサーバーの統合とクラウドバックアップ

2023年度 第1四半期に全システム統合



・全基幹システムの合理化サーバへの移行が完了
= ハードウェア統合により導入コスト及び年間保守費用の削減

・日次で全基幹システムのデータをクラウドバックアップ
= 事業所毎のテープ保管からクラウド一括保管(事業継続強化)

KAINOS

法令等への対応

2023年度の取り組み：法令等への対応 (1)

1） 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

・自己資本利益率(ROE) 8%未満・株価純資産倍率(PBR) 1倍割れ企業に対する現状分析から改善計画の策定・開示等が求められている

2023年度上期の対応： 現状分析・開示

2023年6月23日付 コーポレートガバナンス報告書への追記
【資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応】

・資本収益性の指標であるROEやROIC (株価資本利益率)は，株主資本コストやWACC (加重平均資本コスト)を上回り、資本コストを上回る資本収益性を達成。

・一方，PBR は2020年3月期以降 1 倍弱で推移，期末株価上昇率は限定的。

・当社の成長性が投資者から十分に評価を頂いていないものと分析，市場評価の改善に向けた適切なIR活動，そのための新製品の開発や設備投資を含む各種計画の具体的な策定から段階的に実施する。

KAINOS

2023年度の取り組み：法令等への対応 (1)

1）資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

・自己資本利益率(ROE) 8%未満・株価純資産倍率(PBR) 1倍割れ企業に対する現状分析から改善計画の策定・開示等が求められている

2023年度上期の対応：　現状分析・開示

PBR改善に向けて

・ROE向上　　：　一層の収益性改善 (純利益額及び売上高純利益率の向上)
・自己資本減少：　政策保有株式の削減等 (総資本回転率の改善)
・株主還元強化：　配当，自己株式取得等の検討
・IR活動の強化：　新規開発など自社の事業活動の積極的な開示

・当社の成長性が投資者から十分に評価を頂いていないものと分析，市場評価の改善に向けた適切なIR活動，そのための新製品の開発や設備投資を含む各種計画の具体的な策定から段階的に実施する。

KAINOS

2023年度の取り組み：法令等への対応 (2)

2）インボイス制度・電帳法への対応

適格請求書等保存法： 最小限の販売管理システム変更

・販売管理 及び 会計システム等の基幹システム改修を実施

・仕入れ先及び取引先等への当社適格請求書様式の事前通知

・精算方法等の社内教育及び周知

・10月施行・運用開始後のフォローを継続

電子帳簿保存法： 運用開始に向けた各種準備

・電子取引データ改竄防止のための事務処理規程準備（1月制定）

・電子保存ファイルの検索環境整備（含 データ保存形式確認）

・電子ファイル保存法式等の設計、取り扱い手順の社内説明実施

・2024年1月義務化に向け11月からテスト運用を開始

KAINOS

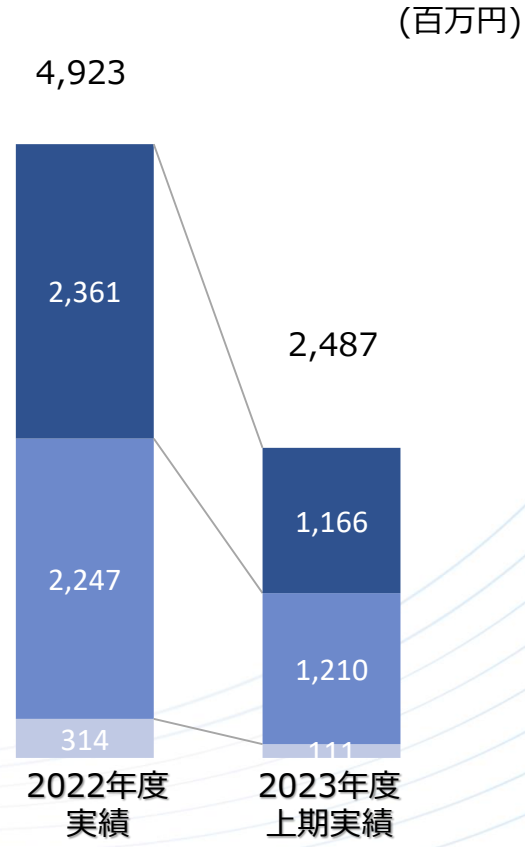
KAINOS
KAINOS LABORATORIES,INC.

2023年度 予想

売上高(検査分野別)

CREはじめマルチ9項目の基幹施設での更なるシェアアップ
輸血機器の更なるシャア拡大及び既設置施設の確実な更新
敗血症マーカー市場への参入

	2022年度 実績	2023年度 予想	前年比
生化学	2,361	2,415	54
免　疫	2,247	2,420	173
その他	314	364	50
合　計	4,923	5,200	277

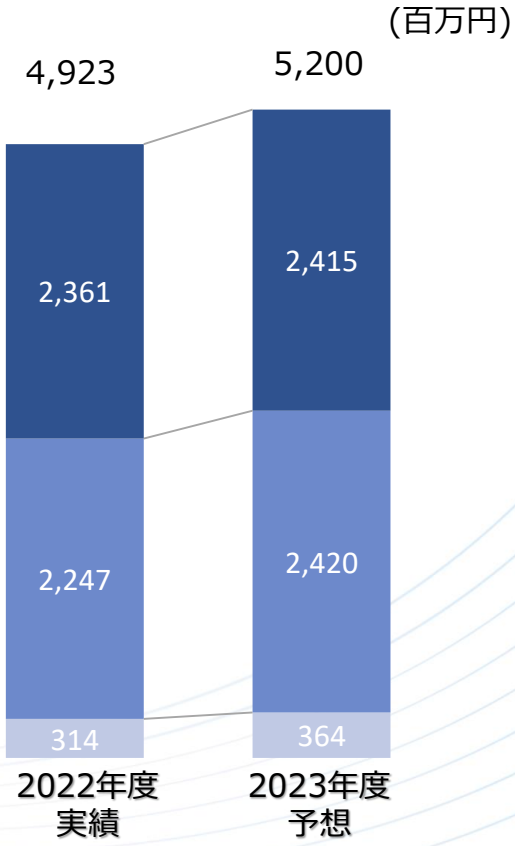


KAINOS

売上高(検査分野別)

CREはじめマルチ9項目の基幹施設での更なるシェアアップ
輸血機器の更なるシャア拡大及び既設置施設の確実な更新
敗血症マーカー市場への参入

	2022年度 実績	2023年度 予想	前年比
生化学	2,361	2,415	54
免　疫	2,247	2,420	173
その他	314	364	50
合　計	4,923	5,200	277

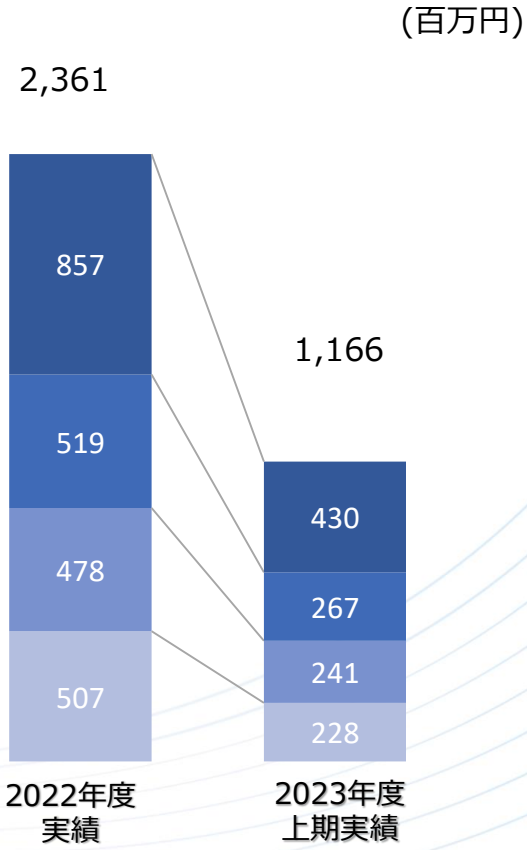


KAINOS

売上高(生化学)

CREのトップシェア及び機器メーカーとの協業によるマルチ9項目の売上拡大
敗血症マーカー上市後の垂直立ち上げ

	2022年度 実績	2023年度 予想	前年比
腎機能	857	930	73
肝機能	519	532	13
糖尿病	478	530	52
その他	507	423	▲84
合　計	2,361	2,415	54

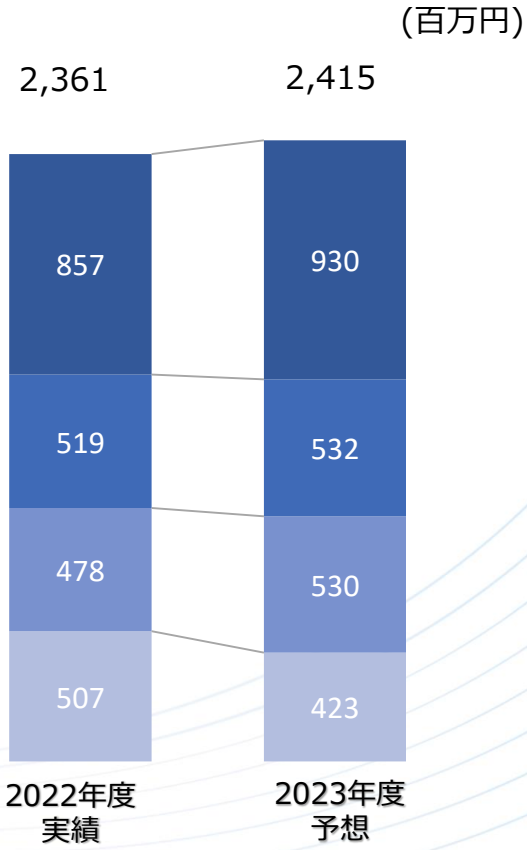


KAINOS

売上高(生化学)

CREのトップシェア及び機器メーカーとの協業によるマルチ9項目の売上拡大
敗血症マーカー上市後の垂直立ち上げ

	2022年度 実績	2023年度 予想	前年比
腎機能	857	930	73
肝機能	519	532	13
糖尿病	478	530	52
その他	507	423	▲84
合　計	2,361	2,415	54

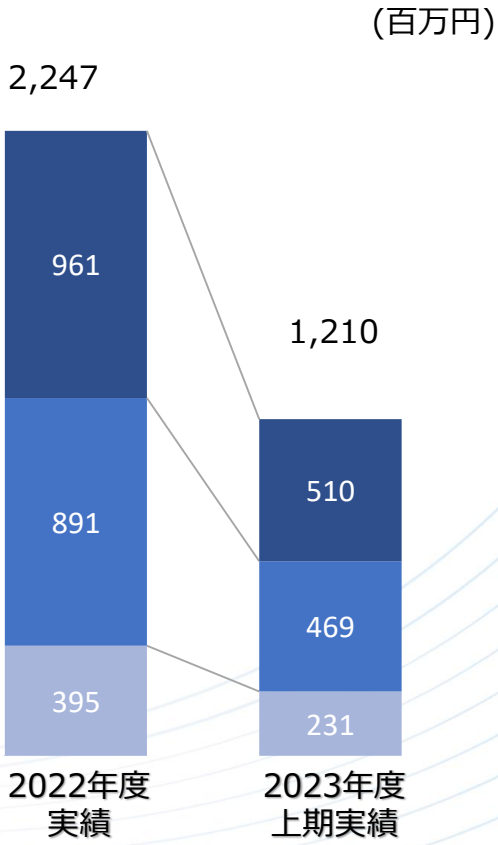


KAINOS

売上高(免疫)

輸血事業のシェア20%獲得：　Eflexis中心に基幹施設でのシェアアップ
及び 機器設置8年経過施設の更新, 機器見学(リモート)・web説明会
及び 精度管理調査を中心にアフターフォローの強化

	2022年度 実績	2023年度 予想	前年比
輸血 (除機器)	961	1,026	65
腫瘍 マーカー	891	874	▲17
その他	395	520	125
合　計	2,247	2,420	173

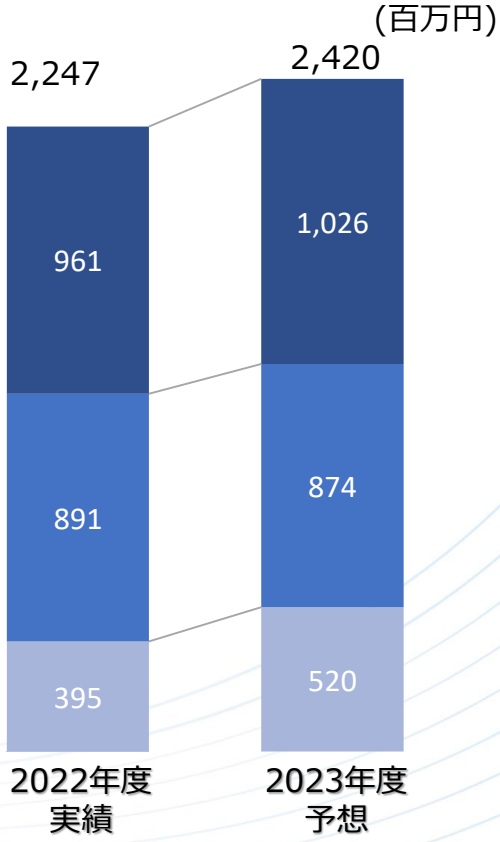


KAINOS

売上高(免疫)

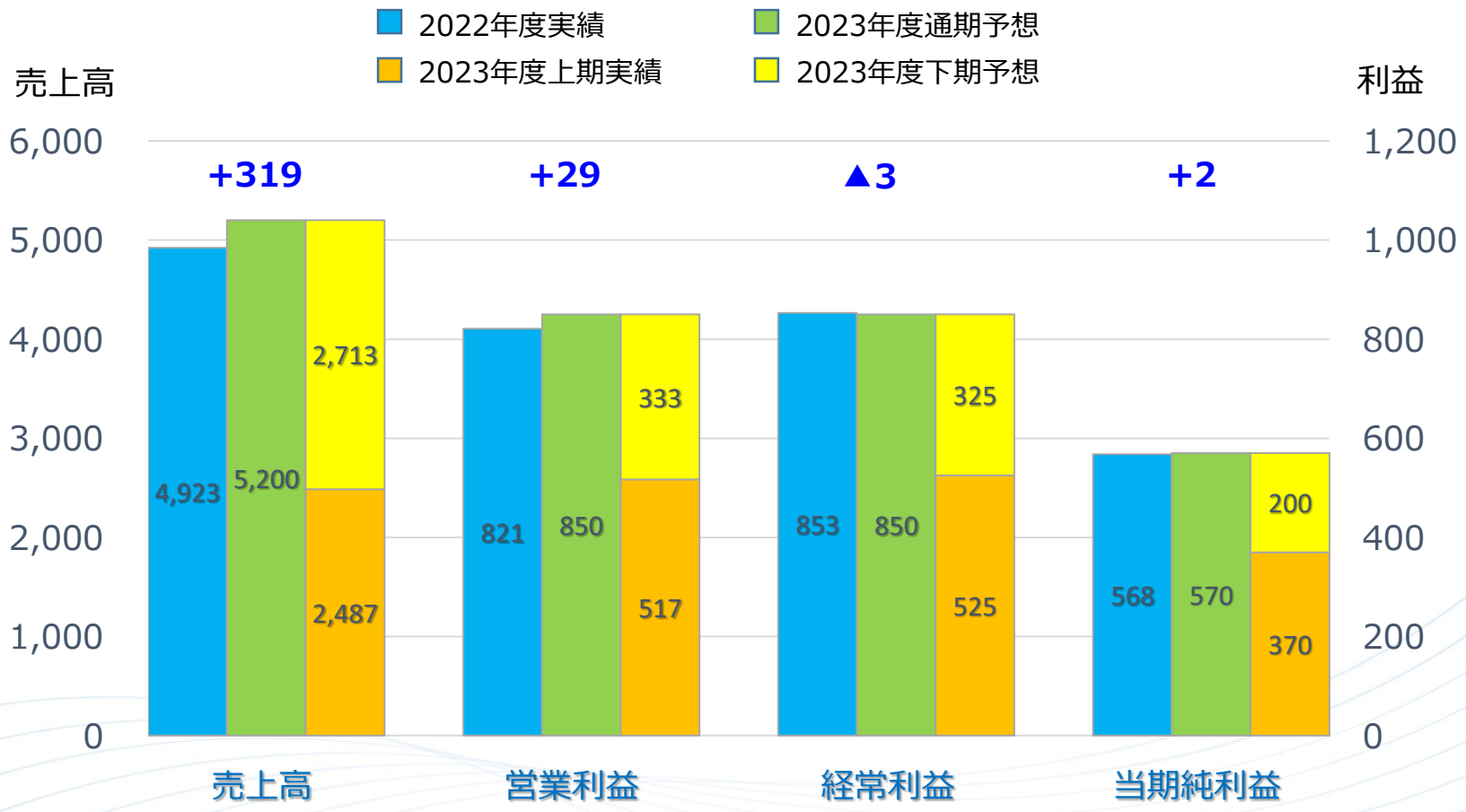
輸血事業のシェア20%獲得：　Eflexis中心に基幹施設でのシェアアップ
及び 機器設置8年経過施設の更新, 機器見学(リモート)・web説明会
及び 精度管理調査を中心にアフターフォローの強化

	2022年度 実績	2023年度 予想	前年比
輸血 (除機器)	961	1,026	65
腫瘍 マーカー	891	874	▲17
その他	395	520	125
合　計	2,247	2,420	173



KAINOS

2023年度 通期予想



KAINOS

2023年度 通期業績予想

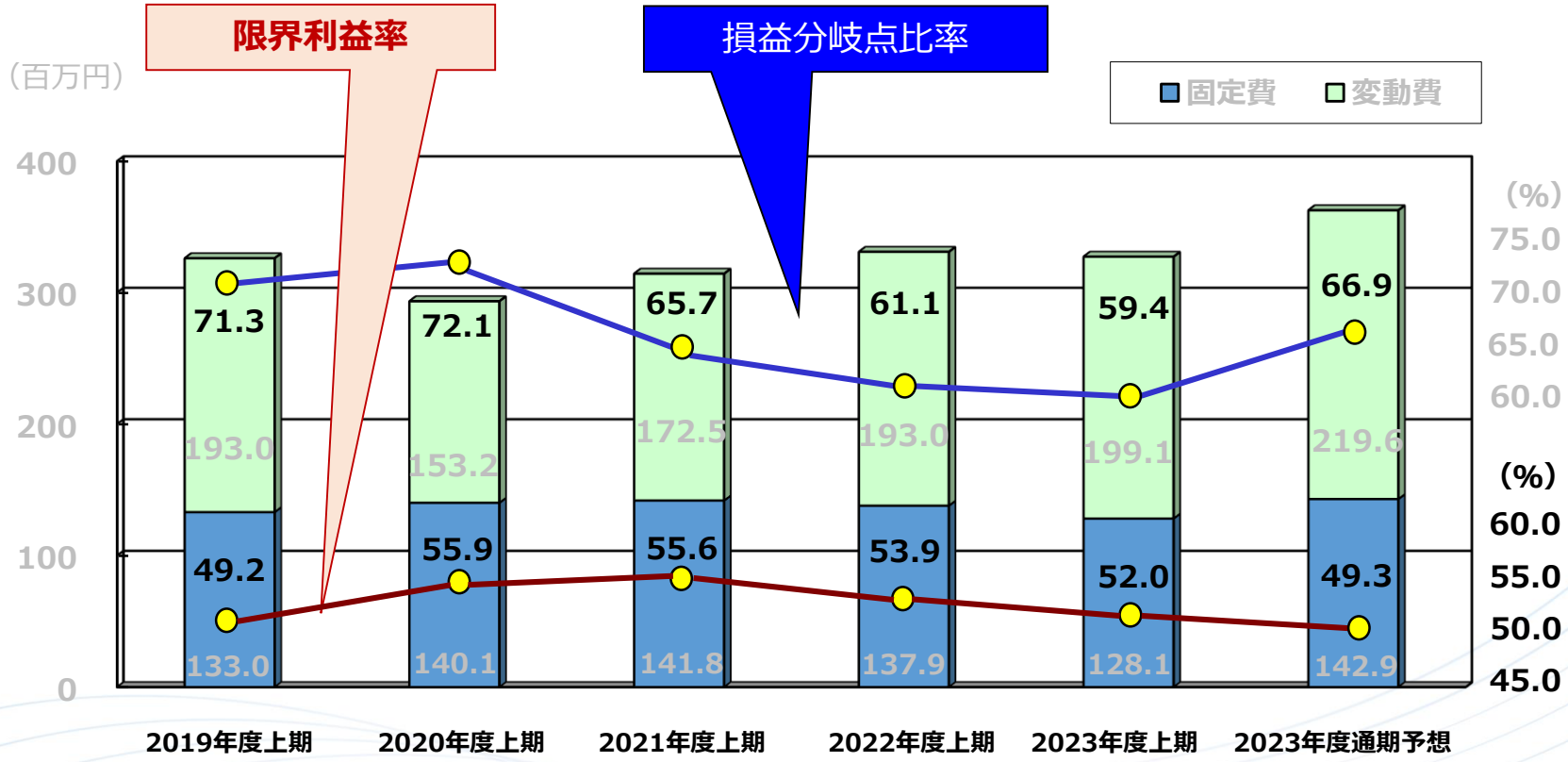
（単位：百万円）

		2022年度 通期実績	2023年度 通期予想	増減額	増減率 (%)
売上高	製品	4,149 (86.1%)	4,468 (85.9%)	319	7.6
	商品	774 (13.9%)	732 (14.1%)	▲42	▲5.4
	計	4,923 (100%)	5,200 (100%)	277	5.6
営業利益		821	850	29	3.5
経常利益		853	850	▲3	▲0.5
当期純利益		568	570	2	0.3

KAINOS

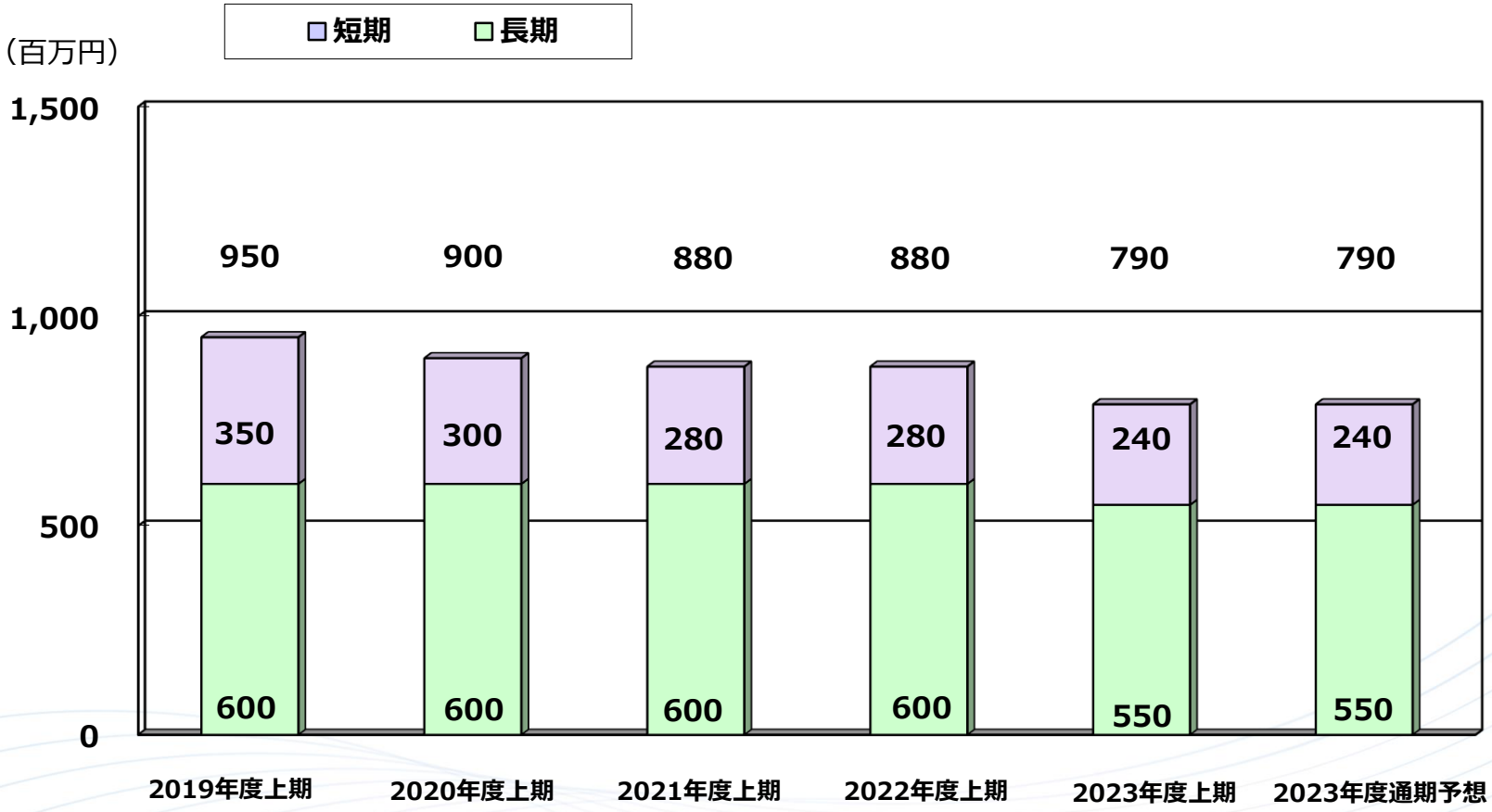
損益分岐点の推移

損益分岐点比率：59.4%(23年度上期実績)　66.9%(23年度予想)
限界利益率　　：52.0%(23年度上期実績)　49.3%(23年度予想)



KAINOS

有利子負債の状況


短期
長期
（百万円）
1,500
1,000
500
0
950
900
880
880
790
790
350
300
280
280
240
240
600
600
600
600
550
550
2019年度上期
2020年度上期
2021年度上期
2022年度上期
2023年度上期
2023年度通期予想

Creative Power & Innovation

Creative Power & Innovation

KAINOS

KAINOS LABORATORIES,INC.

KAINOS
KAINOS LABORATORIES,INC.

本資料は、金融商品取引上のディスクロージャー資料ではなく、情報の正確性を保証するものではございません。 本資料に記載されている業績予想等については、現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としており、今後様々な要因の影響から、本資料の予想とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

本資料は投資勧誘や宣伝広告を目的としたものではなく、当社は、本資料の利用により生じたいかなる損害に対しても一切責任を負いかねます。